



生ごみ処理システム対応

ディスポーザ

YD130BW

YD130BWP

YD130BWA

YD130BWPA

施工説明書

一部の指定地域を除き、ディスポーザ単独での使用はできません。

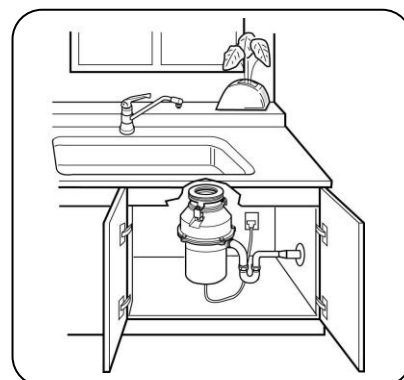
専用合併浄化槽や生ごみ排水対応下水処理槽との併用でのみ使用できます。

本書による施工方法以外の不適切な施工で事故および故障が生じた場合、当社は責任を負いませんのであらかじめご了承ください。

はじめに(施工される方へ)

施工前に配線・配管工事の内容についてお客様と必ず打合せを行ってください。

施工完了後、必ず試運転を行い、不具合がないことを確認してください。



手順 安全に施工いただくために

1 安全上のご注意

必ずお守りください

据付工事前に必ずよく読んで、正しくお使いください。

ここでは人身事故や家財の損害を未然に防止するために必ずお守りいただく内容を説明しています。

誤った施工をしたときに生じる危険や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

お守りいただく内容の種類を、次の表示で区分し、説明しています。



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。




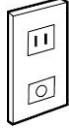




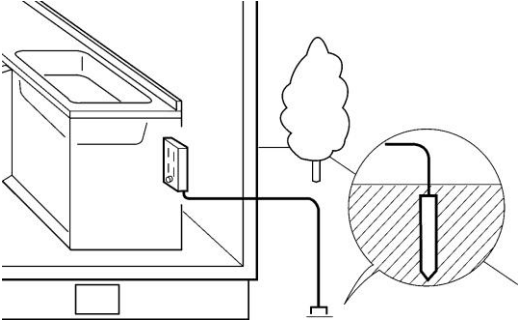

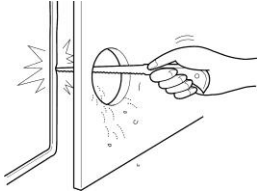

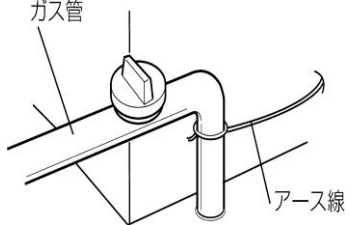



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



この絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

1 安全上のご注意

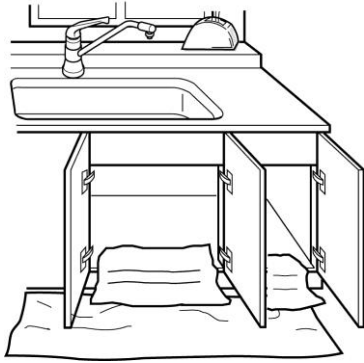
警告

	<p>定格15A・交流100Vの専用回路を単独で使用してください。</p> <p>他の機器と併用すると、発熱による火災の原因になります。</p>  <p>定格15A・交流100V</p>		<p>電気工事・配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従い、安全、確実に行ってください。</p> <p>誤った電気工事・配線工事は感電や火災の原因になります。</p>
	<p>設備・配管工事は、現場の設置図および施工説明書に従い、必ず付属の部品を使って確実に行ってください。</p> <p>強度不足や取付けが不完全な場合は、本体の落下などによるケガの原因や、火災・感電・水漏れなどの原因になります。</p>		<p>設置工事は、設置専門業者または指定業者が行ってください。</p> <p>誤った設置工事や移設工事は、火災・感電・水漏れの原因になります。</p>
	<p>アース線は必ず接地してください。</p> <p>※D種接地(対地間 100Ω以下)を行い、工事後、接地抵抗計にて確認してください。</p> <p>アース線を接続しないと、万一の故障や漏電のとき感電の原因になります。 (アース線の取付けは、法律で義務付けられています。) アース工事は、電気設備技術基準に基づいて電気工事士の方が行ってください。</p>		
	<p>設置・配線工事の際の壁への穴あけ、電源ケーブルの固定は、屋内配線・屋内配管を傷つけないようにしてください。</p>  <p>漏電・感電・火災の原因になります。</p>		<p>アース線はガス管、水道管、避雷針、電話線には絶対に接続しないでください。</p>  <p>爆発・感電の原因になります。</p>
	<p>設置終了後は、設置・配線工事が確実にできているか確認してください。</p> <p>設置が不完全な場合は、本体の落下などによるケガや、火災・感電・水漏れなどの原因になります。</p>		<p>電源ケーブル類をステーブルなどで固定しないでください。固定は市販のケーブル固定具をお使いください。</p>  <p>電源ケーブル類が破損して、ショートし感電・火災の原因になります。</p>

⚠ 注意



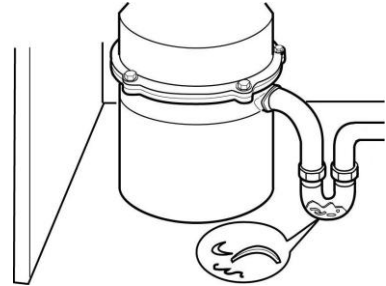
施工の際は、床に毛布などを敷いてください。



毛布などを敷いていないと床にキズが入り、補償問題になることがあります。



施工の際に、排出管内に布きれ、配管くずなどを残さないでください。



排出管内に布きれ、配管くずなどがあると、配管内が詰まり、水漏れの原因になります。



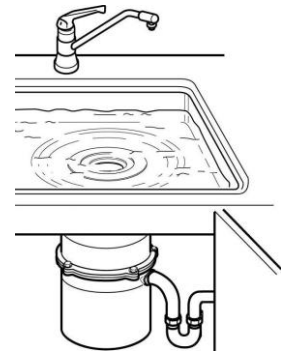
シンクに、60°C以上の湯を続けて流さないでください。



配管部品の変形や劣化が発生し、水漏れの原因になります。



シンクに水をためているときは、絶対に運転しないでください。



本体やシンクが大きく振動し、本体が落ちてケガをしたり流し台内部の破損・水漏れの原因になります。

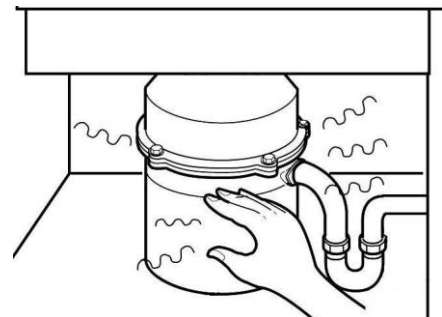


電源コード・ケーブル類は、給湯管などの高熱になるものに近づけないでください。

電源コード・ケーブル類が加熱され破損し、火災・感電の原因になります。



運転した後は、モーターに直接手を触れないでください。



運転直後は高温になっているため、やけどの原因になります。

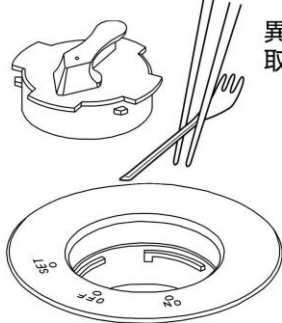


ディスポーザを運転するときは、必ず水を流してください。

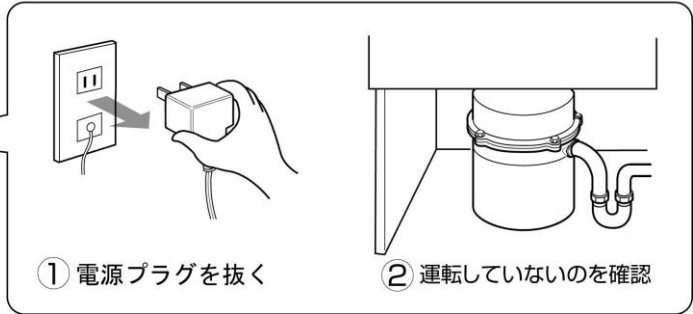
水を流さずに運転すると、スイングハンマとターンテーブルの接触によるキズが大きくなり、騒音や振動が大きくなる原因になります。

⚠ 注意

異物を取り除くときは、あらかじめコンセントから電源プラグを抜いて運転が止まっていることを確認してから行ってください。



異物を取り除く前に



① 電源プラグを抜く

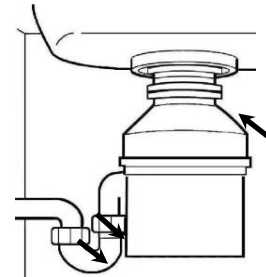
② 運転していないのを確認

粉碎部内のスイングハンマなどで、手にケガをする原因となります。



通水後は、各部の水漏れ確認を必ず行ってください。

水が漏れると、周囲が氷びたしとなり、大きな補償問題になることがあります。



施工後は、金属片やタイル片などをきれいに取り除いてください。また、施工後の金属片やタイル片などはディスプレイで処理しないでください。

破損の原因になります。

手順

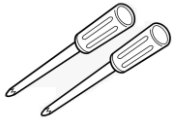


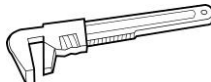
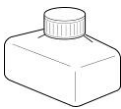


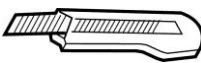
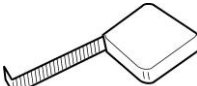
2 部材一覧 (そろっているかご確認ください。)

※お客様の仕様により、付属品は別梱包や付属していない場合があります。

本体 	付属品1 ロックナット Oリング リセットボタンシール パッキン 押え金 六角ボルト 排水エルボ オーバーフロー口付タイプ 押え金付 接続ホース 六角ナット (YD130BWP YD130BWPA) 施工説明書 	付属品2 噛みこみ解除工具 アミ皿 取扱説明書
	オプション PトラップまたはSトラップ ゴムジョイント Pトラップ Sトラップ	

3 施工の前の確認

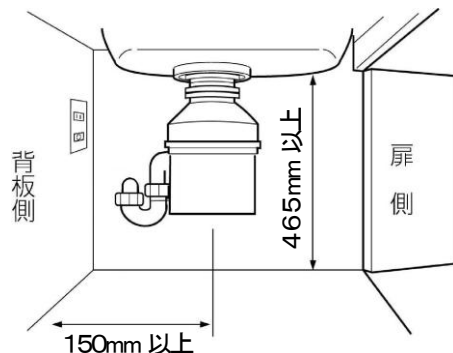
工具の確認(施工には次の工具が必要です。)※付属品ではありません。

+、-ドライバー 	ウェス、毛布など 	塩ビ用ノコ 	モーターレンチ 	塩ビ用接着剤 
ロックナット締付け工具 	スパナー(10mm) 	カッター 	スケール 	

設置位置の事前確認

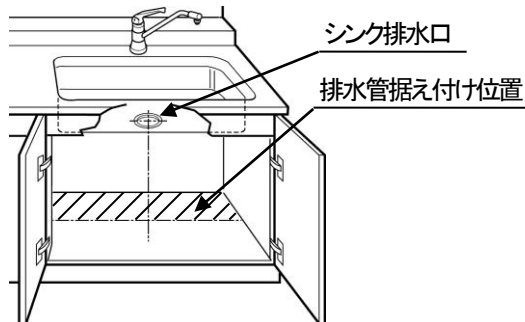
取付けスペースの確認

本体(Φ152×h326mm)設置スペースに加え配管スペースが必要となります。
 シンク下部に右図のようなスペースを確保できることを確認してください。



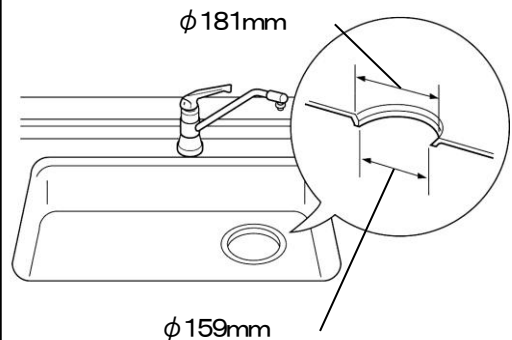
排水管の取付け確認

排水管はシンク排水口より奥側の位置(キャビネット内)に取付けてください。(ディスプレイと排水管の位置関係は、手順6参照)
 ※取付け位置はお客様と事前に打ち合わせをしてください。



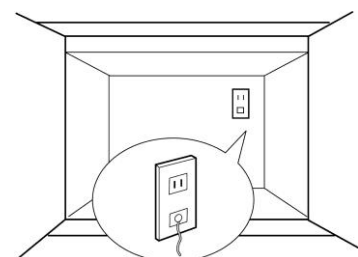
取付けるシンク排水口の確認

取付け可能なシンク排水口形状は下図の通りです。



電源およびアースの確認

電源はAC100V、15A以上が必要です。
 本品を設置するシンク用ベースキャビネット内に、アース端子付コンセントを設け、これに電源電線・アース線を配線できる計画と準備をしてください。
 (手順6参照)
 ※取付け位置はお客様と事前に打ち合わせをしてください。

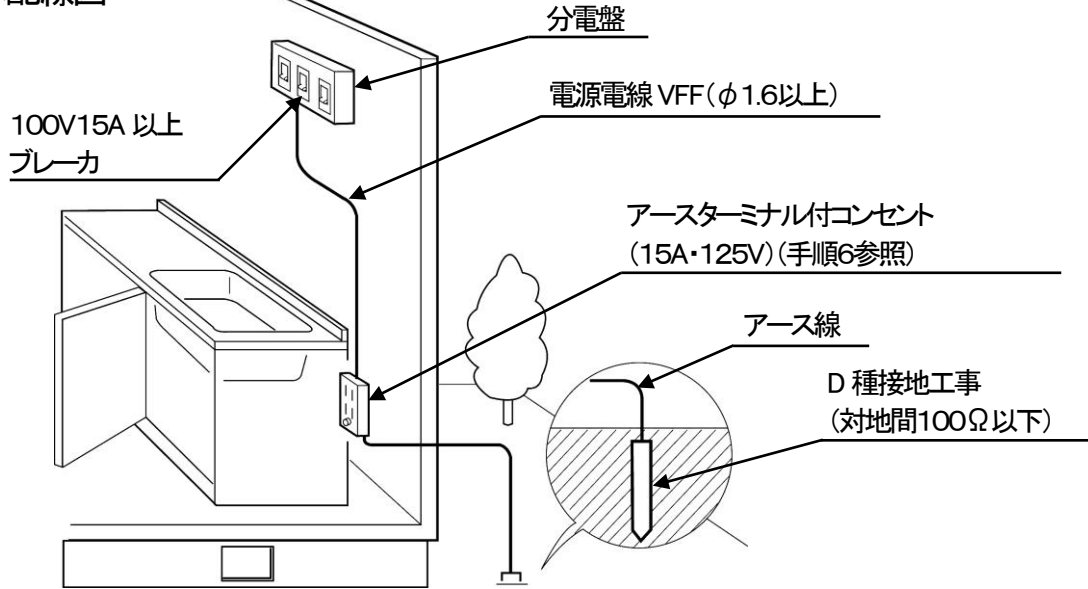


手順

3 施工の前の確認

基本配線の事前確認

●基本配線図



手順

4 排水口の確認

●ディスポーザの排水エルボと流し台の排水管をストラップまたはPトラップを介して接続する計画と準備をしてください。(手順6参照)

※配水管の位置が床の場合はストラップ、側面の場合はPトラップとなります。

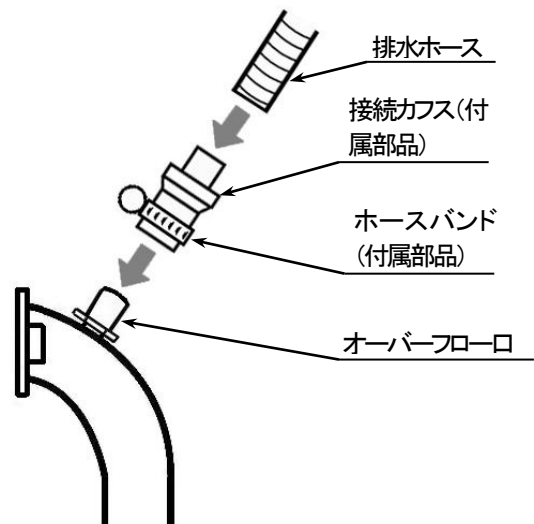
手順

5 オーバーフロー口の^{ぐち}接続方法

接続方法

※オーバーフロー口付の場合は、右図の通りです。

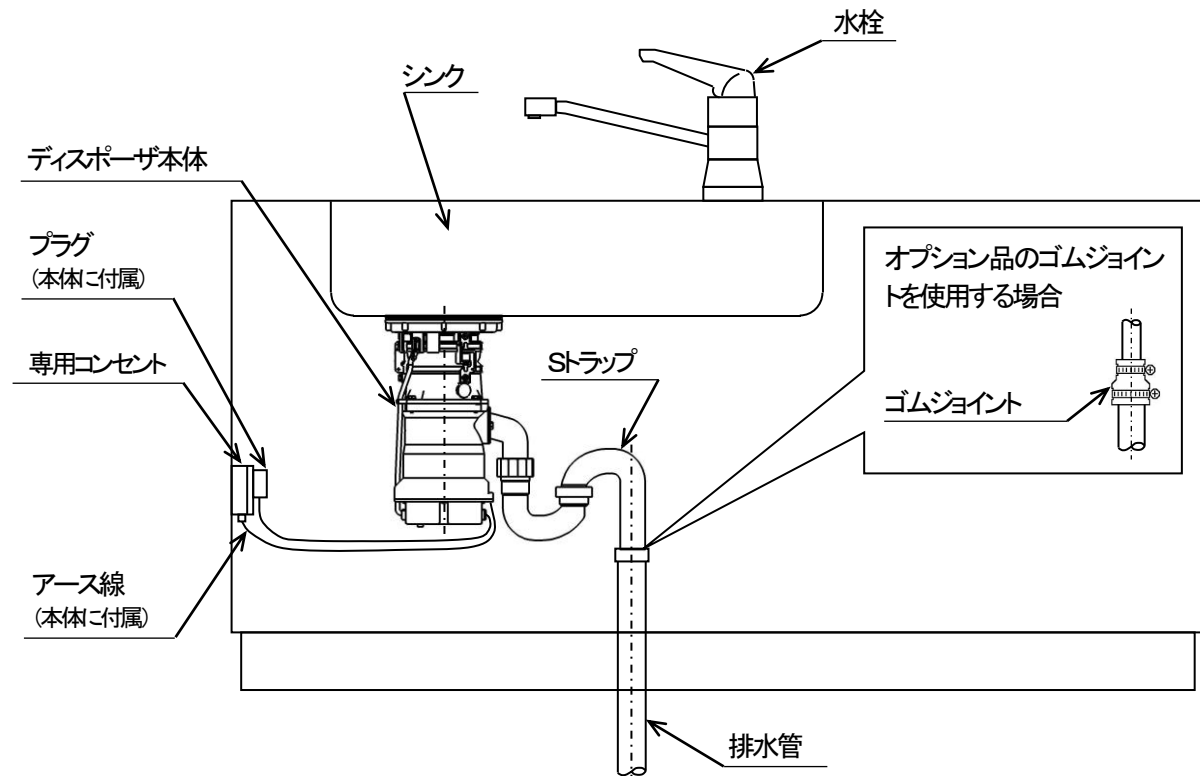
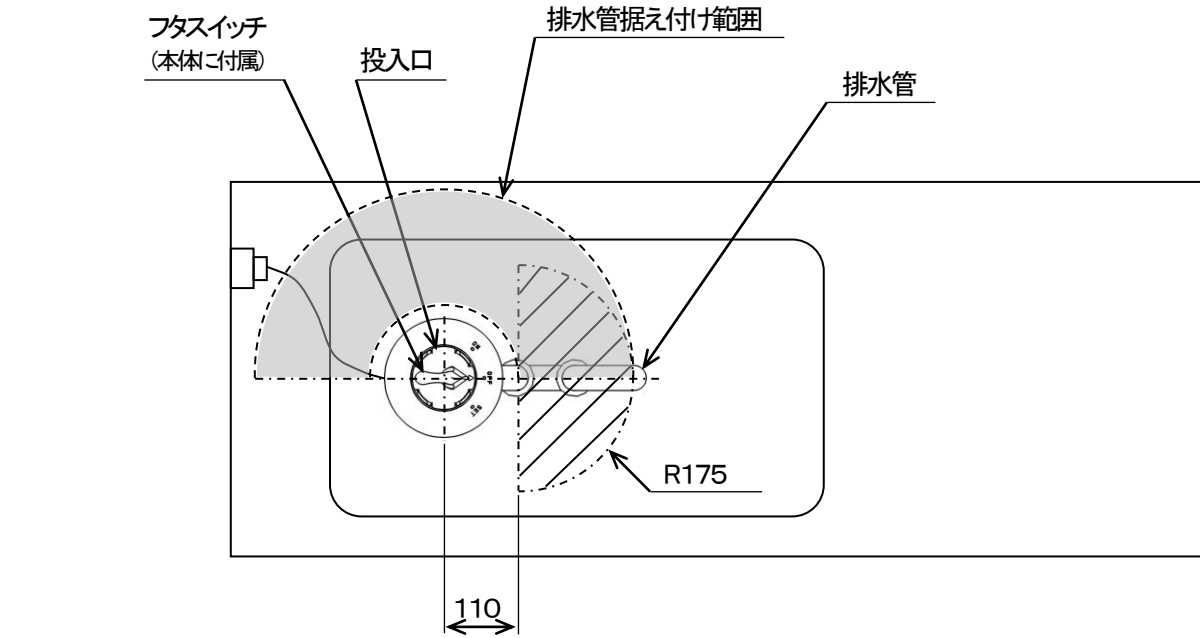
- ① 使用時はオーバーフロー口内にあるキャップ(栓)を先の尖った物で引っ掛けて抜き取ってください。
- ② 内径25mmの排水ホースと付属部品を使用して右図のように接続してください。
排水ホースは必要に応じてニツヅなどで切ってください。
(排水ホースと接続カフスは塩ビ用接着剤で接着してください。)
- ③ 接続後、水漏れを確認してください。



6 施工概要図

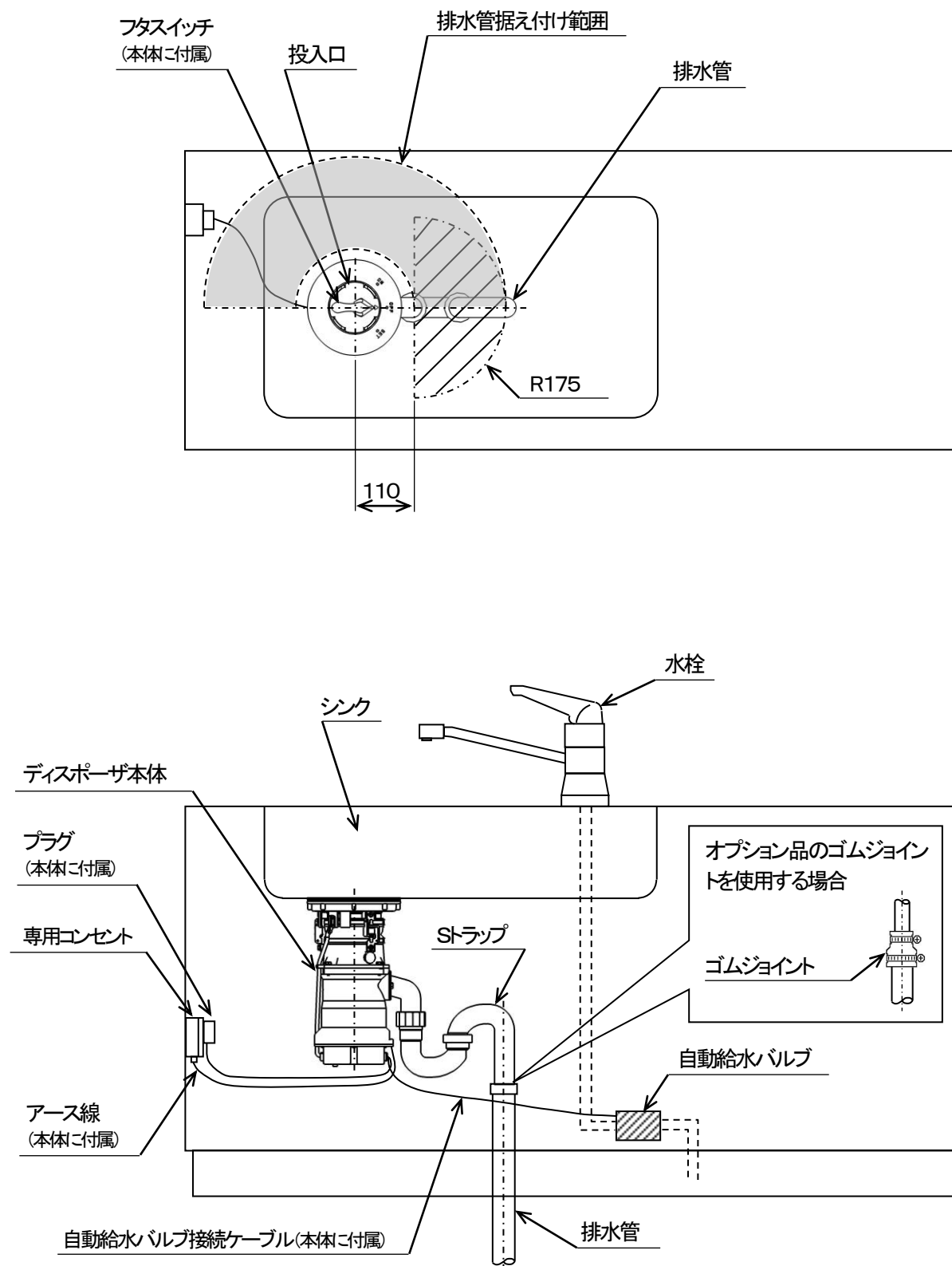
Sトラップ型(トラップ取付け例)… YD130BW、YD130BWP

●配線工事は電気工事士による



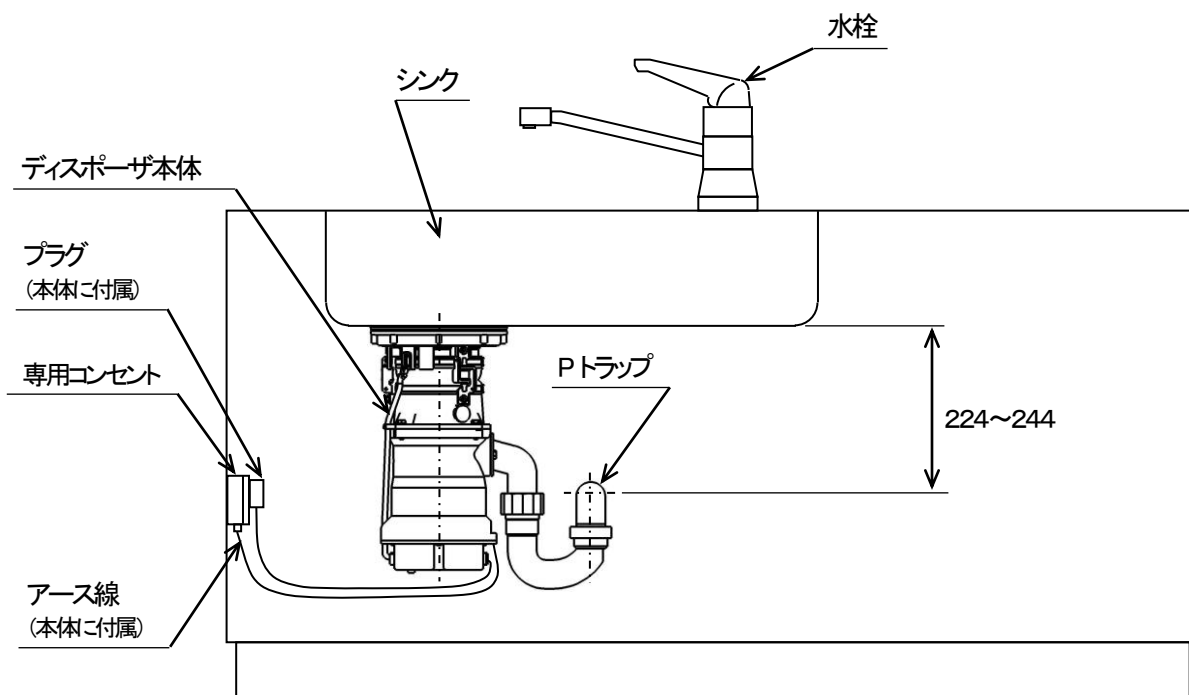
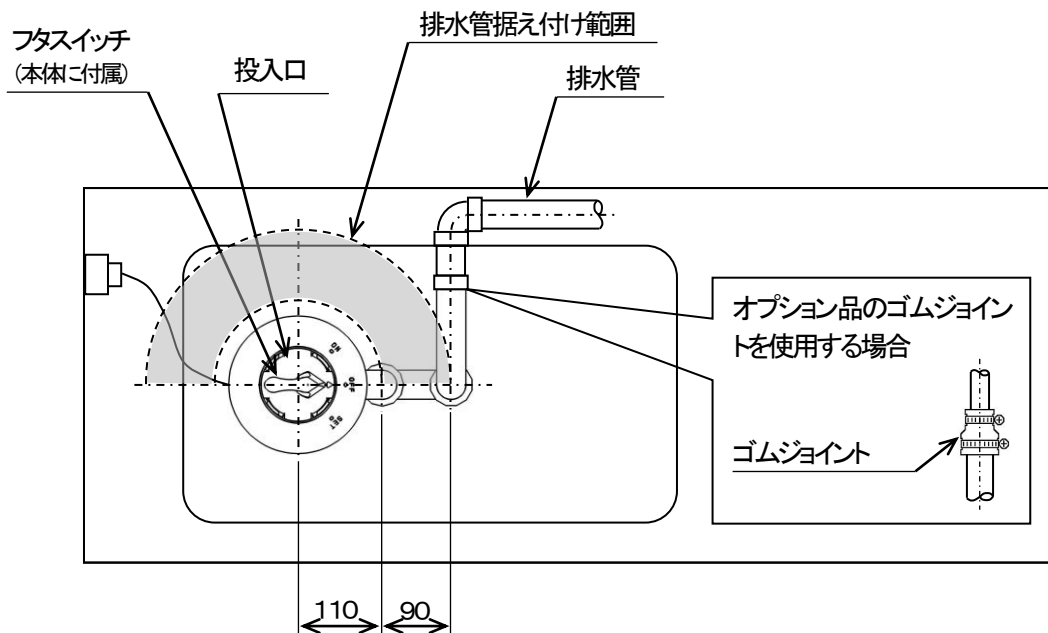
ストラップ型(トラップ取付け例)… YD130BWA、YD130BWPA

●配線工事は電気工事士による



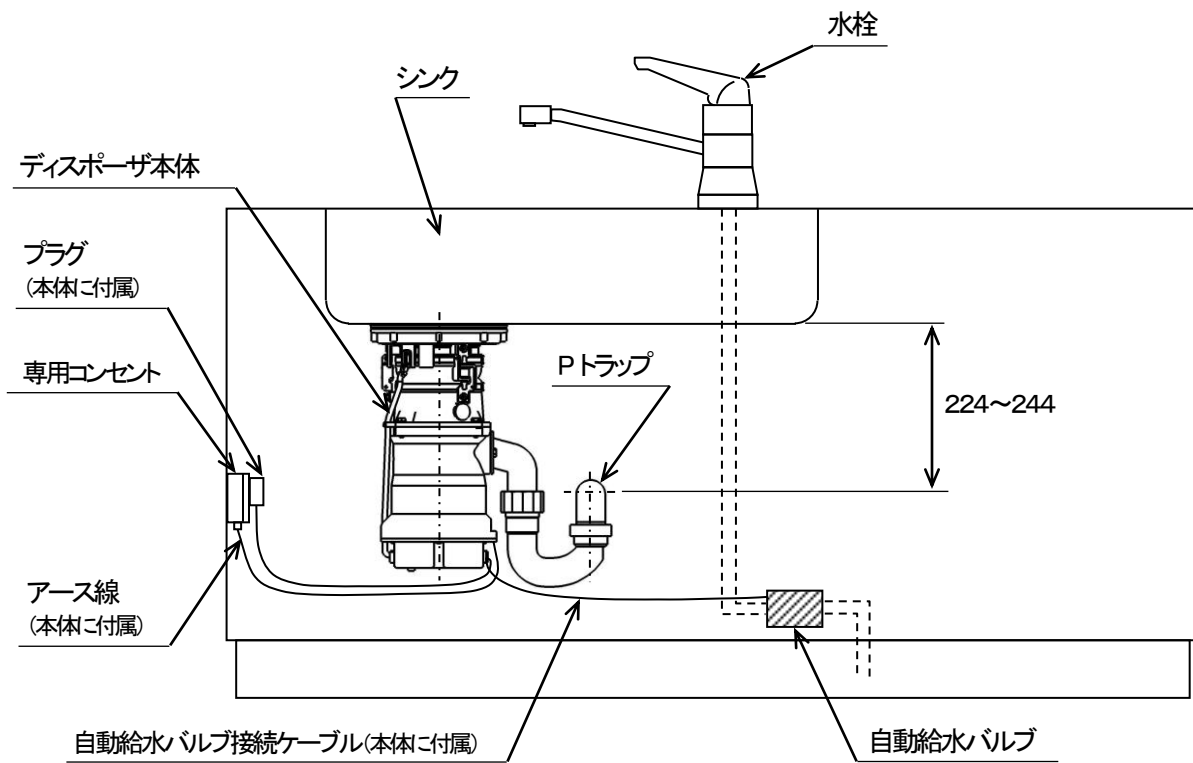
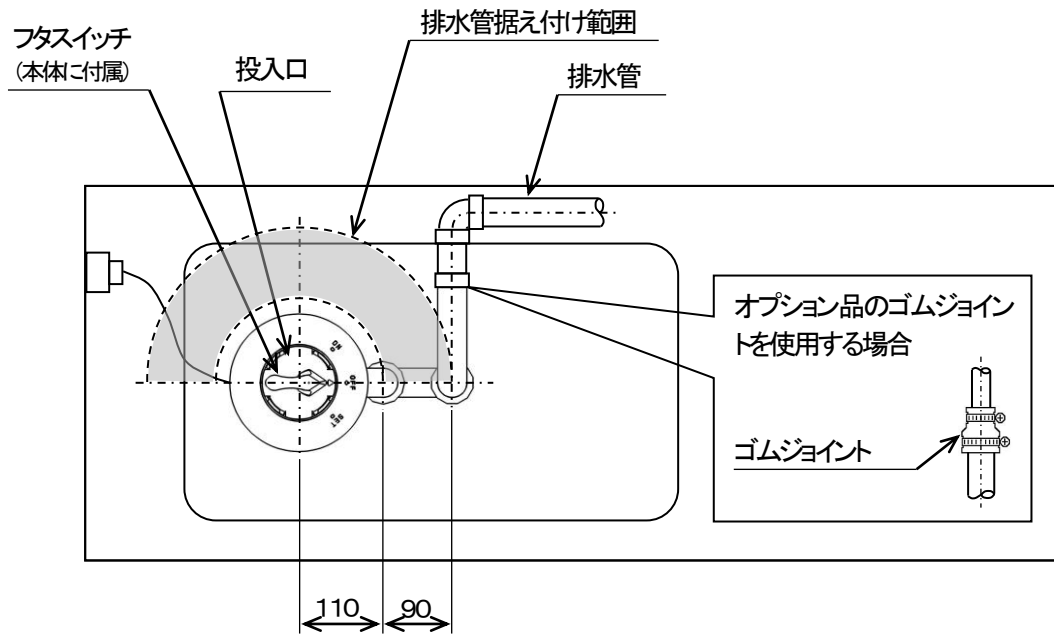
Pトラップ型(トラップ取付け例)… YD130BW、YD130BWP

●配線工事は電気工事士による



Pトラップ型(トラップ取付け例)… YD130BWA、YD130BWPA

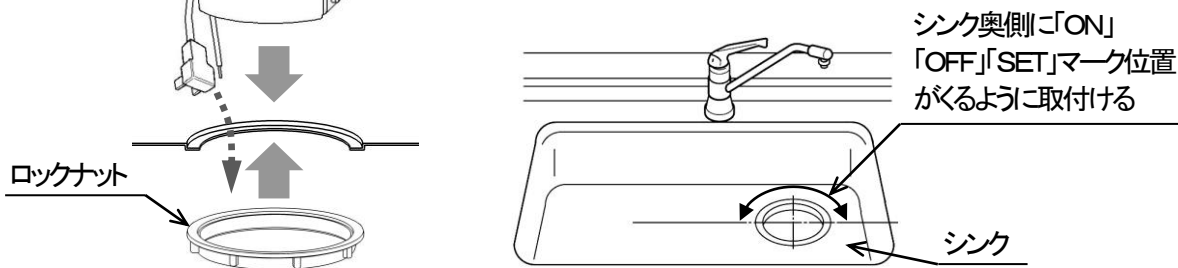
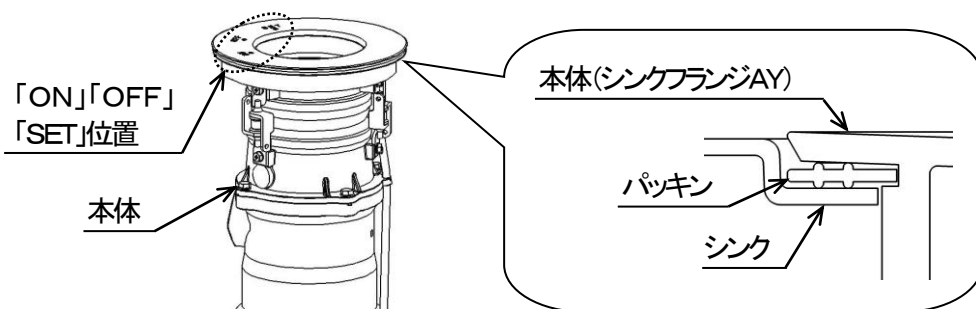
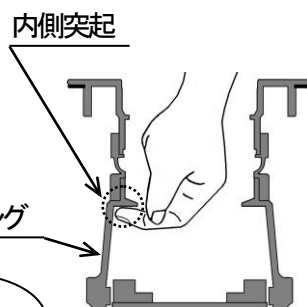
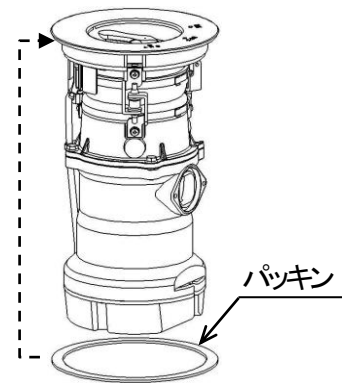
●配線工事は電気工事士による



7 本体の取付け・固定

1. 本体の取付け

- ① パッキンを本体底部より挿入し、シンクフランジAYの溝にはめ込んでください。
- ② 本体の上側ケーシング内側突起に指を引っ掛け、シンク排水口の上方向から電源コード・アース線を通してください。
※YD130BWA・YD130BWPAの場合は、電磁バルブ接続線も含む。
- ③ シンク排水口に本体を挿入する。
- ④ シンクフランジの「ON」・「OFF」・「SET」マーク位置がディスプレイ取付け口の中心よりシンク奥側になるように取付けてください。
- ⑤ ロックナットを本体底部から挿入し、ロックナット締め付け工具にて締め付ける。



⚠️ 注意



パッキンが変形やねじれた状態になっていないことを確認してください。
水漏れの原因となります。

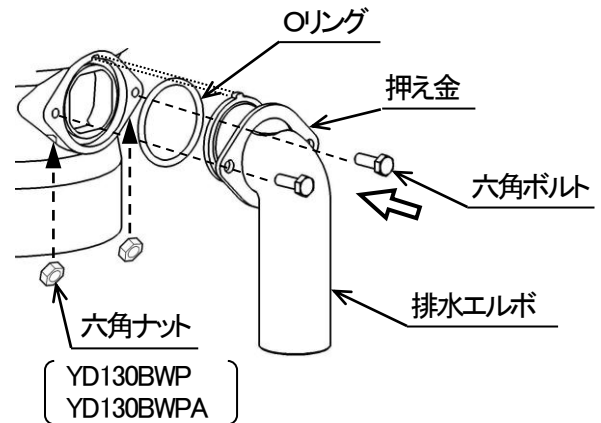
シンクに本体を挿入する際は、干渉させないように注意してください。
本体・電線類にキズが付く原因となります。



シンクと本体に指をはさまないように注意してください。
本体が落ちて、ケガをしたり、流し台や本体の破損・水漏れの原因となります。

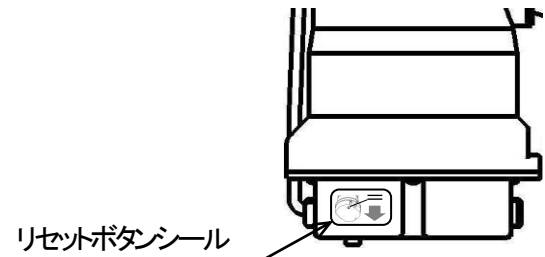
2.排水エルボの取付け

- ①リングを本体の排水口にはめ込んでください。
 - ②排水エルボを本体の位置決め溝に合せて、はめ込んでください。
- ※YD130BW・YD130BWAの場合
- ③押え金を六角ボルト(2本)にて、締め付けてください。
- ※YD130BWP・YD130BWPAの場合
- ③六角ナット(2個)を排水口下側の溝に合わせて挿入し、押え金を六角ボルト(2本)にて、締め付けてください。



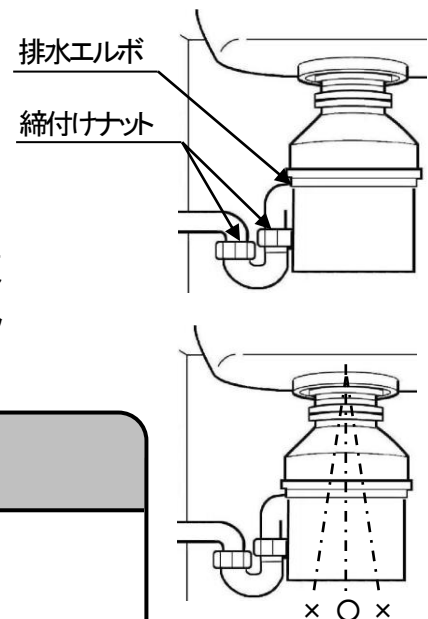
3.シール貼り付け

- ①本体下部のリセットボタンシールを貼り付ける。
- ※シンク手前方向から見える位置に貼り付けてください。



4.トラップの取付け

- ①SトラップまたはPトラップを本体が傾かないようにトラップを調整しながら排水エルボと配水管に合うように仮接続します。
 - ②仮接続終了後、トラップの締付けナットを確実に締め付けてください。
- ※付属品やオプション品等の使用により、トラップと配水管の接続方法が異なる場合がありますので、手順6施工概要図を参考に接続してください。
- ③本体が斜めに傾いていないことを確認してください。
- ※本体がトラップで押されていたり、引っ張られたりすると本体が斜めに傾いた状態になります。その場合は、本体の傾きがなくなるように再度トラップの調整をしてください。



⚠️ 注意



接続部は確実に締め付けてください。

水漏れの原因となります。

本体が斜めに傾いていないことを確認してください。

本体が斜めに傾いて取付けされていると振動・騒音の原因となったり、トラップ・排水管の損傷・劣化の原因となります。

5. 自動給水バルブへの接続 (YD130BWA・YD130BWPA)

- ①端子接続コネクタを図のように、バルブ側端子へしっかりと差し込んで接続します。
- ②自動給水バルブと端子接続コネクタのバンド通し穴から結束バンドを通し、縛って固定してください。
- ③端子接続コネクタが自動給水バルブから外れないことを確認してください。

警告



端子接続コネクタとバルブ側端子を接続するときは、コンセントから電源プラグを抜いて行ってください。

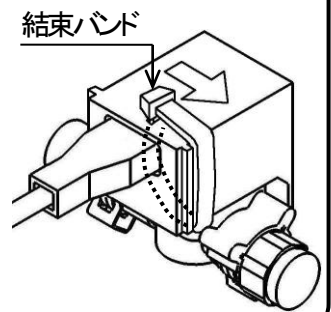
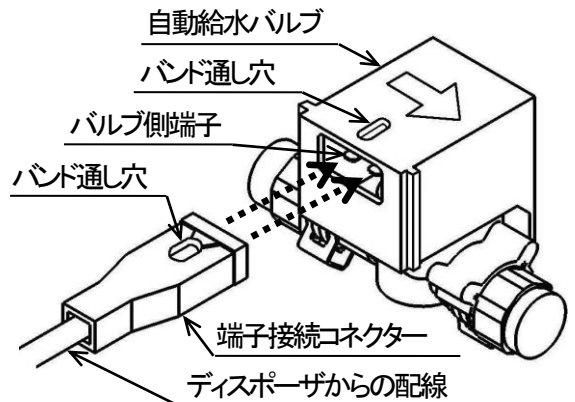
感電や本体破損の原因となります。

注意



端子接続コネクタがしっかりと差し込んでいるか確認してください。

端子の破損の原因となります。



これで取付けが完了しました。

手順

8 試運転

1 工事を確認する

- 電源工事、接地工事が完了しているか。
- 本体がシンクに正しく取付けられているか。(容易に回転しないよう締め付けられているか。)
- 排水管が正しく取付けられ、各部に緩みがないか。
- YD130BWA・YD130BWPAの場合、自動給水バルブに接続してあるか。

2 粉碎室内を確認する(生ごみを貯めるところ)

- 異物(ネジ・配線くず・木くず等)が混入していないことを確認してください。

※異物が混入している場合は、異物を取り除いてください。

(異物を取り除く作業のときは、電源プラグを抜いて運転が止まっていることを確認してください。)

注意

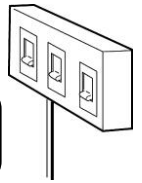
施工時に出たゴミ(ネジ・配線くず・木くず等)が粉碎室内に入っていると、運転時に異音や噛みこみ停止等の原因となります。

3

分電盤のブレーカを「ON」にする



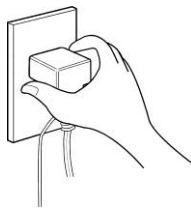
フタスイッチが外れていることを確認してからブレーカをONにしてください。



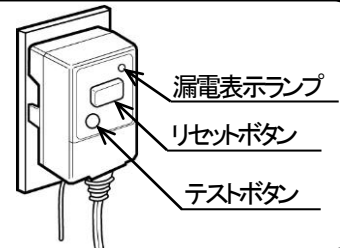
4

電源プラグを差し込む

- プラグを確実に奥まで差し込む。



(漏電保護プラグ付の場合)
差し込み後、運転保護スイッチの漏電表示ランプが点灯していないことを確認してください。
※テストボタンを押して動作確認をしてください。



5

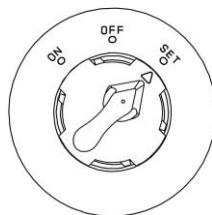
運転確認

YD130BW・YD130BWPの場合

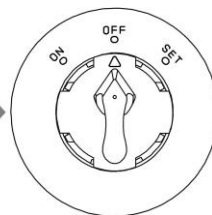
- ①水栓を開き給水を行ってください。
- ②フタスイッチをSET位置に挿入し、OFF位置からON位置の順に回転させてください。
- ③ON位置で運転を開始します。
- ④運転後、約1分で自動停止します。



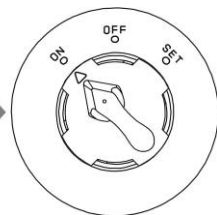
(水を流す)



(この位置でフタスイッチを挿入します)



(一段下に下がります)



(運転がはじまります)

⚠注意



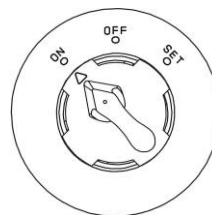
デイスポーズを運転するときは、必ず水を流してください。

水を流さずに運転すると、スイングハンマとターンテーブルの接触によるキズが大きくなり、騒音や振動が大きくなる原因となります。

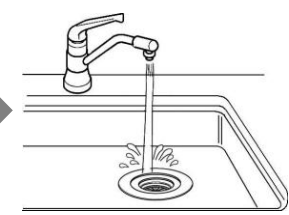
YD130BWA・YD130BWPAの場合

(フタスイッチの操作のみで自動的に水栓より水を流し、運転します。)

- ①フタスイッチをSET位置に挿入し、OFF位置からON位置の順に回転させてください。
- ②フタスイッチをON位置に合わせると水栓より自動的に水が流れます。
- ③水が流れてから約5秒後に運転を開始します。
- ④運転停止後、水が約5秒後に自動的に止まります。



(ON位置に合わせ)



(水が自動的に流れます)

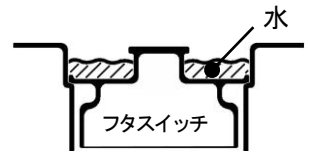
試運転つづき

5
の
続
き

● 次のことを確認してください。

① 運転中に毎分8リットルの水が流れているか。

※水量の目安は運転中、フタスイッチの表面に水が溜まるぐらいです。



※水量が少ない場合は、次のことを確認してください。

① 給水管の止水栓が充分開いているか確認してください。

② 浄水器付水栓の場合、「浄水」で使用すると水量が少なくなる恐れがありますので、「原水」で使用してください。

② 正常に運転し、運転中に異常音、異常振動がないか。

※運転音や振動が大きい場合、次のことを確認してください。

① 排水管に無理な力がかかったり(防振ゴムが斜めに取付いている)、排水管と流し台の床板・壁板等が干渉していないか確認してください。

③ 運転後、約1分で自動停止するか。

● YD130BWA・YD130BWPAの場合、次のことも確認してください。

※フタスイッチをON位置に合わせても水が自動で出ない場合は、手順7-5「自動給水バルブへの接続」の端子接続がされているか確認してください。

※浄水器付水栓の場合、「浄水」で使用すると水量が少なくなる恐れがありますので、「原水」で使用してください。

◎それでも水量が適量でない場合や、運転しても自動的に水が流れない場合は、自動給水バルブ販売店にご相談ください。

6

フタスイッチをOFF位置⇒SET位置に合わせてください

※OFF位置でフタスイッチを引き上げながらSET位置まで回してください。

7

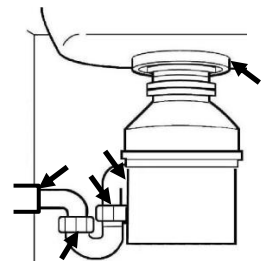
接続部からの漏水確認

● 接続部分が水で漏れていないことを確認してください。

① パッキンのねじれ、ロックナットのゆるみ・ガタがないか。

② Oリングのねじれ、排水エルボ等のゆるみがないか。

③ トラップ・排水管等のゆるみがないか。



8

破損・傷の確認

● フタスイッチ・シンクフランジ・本体・トラップ等に破損・傷がないことを確認してください。

